石山寺入相鐘

松船著

全

へ遠13
1696

門へ13
號1696
巻

帝國圖書館藏

石山寺入相撰

觀

相つゞのこゝろざしをもよりしを乃第代をさえづりぱ階の
花をたゝゝ獻ハざれてもけ逸のうゝ夢をとふまぶを
の沖よ角をとゝゝく蓋聖まれ人をあゝ民をけゝふよ
はれりそゝ改をとゝゝに埴をとりてゝ拾ふおほん附
をえゝゝ豈ゝゝこゞゝゝゝゝゝゝゝや抑江別石山寺ハ
けゝいゝん勅書吳嶺の地京舟法卿閑基ゝゝく
数百歳乃言秋を待ゝゝゝ延寛第四の春三
十三年の法舎にめゞわゝとて三月の十日あまり
雲漢風物さ天花よ侍抑よ侍よ賞よ夢ゝかけを
とけゝよあけゞの山伝殿よゝゝひのゝゝ比戸
乃ゝきひゝゝわゝゝいでや京乃楽助いゝよを

ぎんぷ門田乃面よりそうこう農夫らうあひろうんちで
ま見どろまぶれある早女の鄰ひすそ聖の糸よ絶
とゆる森ぐーうのまいてそう西月あのこ乃衣紋
たろろひ迷故三界の文うそうう菅のと釜の細ちあ
て繍乃ろうあんろろく蔭むし乃雪ふあと付
たりあるいはりもる尼他乃葉蒙よ男をろーめ
て生涯とをろたつぐとせるつもかり塩を乃たぐひ
まてかぐい樹乃百八と眉ふりけぐまハ三十六るんを
はまぐりうろの油蓼にるれるとうはーつ雪と
のこせるこぐめれ神とのぐはまぐそんだり或
ハはの色乃松よむまある渡れぐれぐさろーさぐ
まるふ山鳥ハいろとうーるひつぐさ羽ろ室乃表面雅

が部ろうふー器乃風とそめいぐせる高世やう乃
たをやあぐそれ乃てろうんんそそうーむげ
らをもそどきあべさちりめんの一むそびゆさふ
神の追風ぐはる犬將ゆまもれさまれ号紙ぐもも紙
をろせはろんとおがあろ行の人く雅ゆりみろ
あろうん雪紙書山乃雪に花げーはれを酒
よ乃海ふよやそむ素結の花ぐあるさきるさふ
みちもさりあんどとさろひうりはくかるんあり。
あろふちんぬ歌書乃昊雅世よはまくはーま
をそこ紙帝幼まれむーー開帳乃柳をくやあり
はろんるれどもーを紙書の風ようそれぐいま
ーー乃席よ猜員といどそそのるあもゆう

ざりき。風雲乃手のふ
ぐりふちぐりふ。夢の寝れ命
のまれるうつまでもたゆりてぞうしび雲客
とあ〜なりんまぞ命ハ法乃あうるうどや。面
去大意大悪釈世尊ところるへてぞぐちよりめ乃あけ
そそねゑとりふゆらうる六角乃追手れ鏡
撞ゑ釈ゑ乃むのあふひぐ帝ぐ。帝犬を鞍番の行
燒乃釈よりうとうふけ。暁鶏ちうりよ尊と
みぐに三象の中鳴とうれぐ。歩猫乃涙よひぐに
とそうう釈れ尊ぞんぐちんげ行やう尊ゑ冨全
せんぐんとうるうり考れ。暁の月よそうれ。
燒ぬうとうふんそぬれ月釈さひ〜猫歩の乃ハ
ううもゆうぐみうぐそうりのみ〜あれぐあうれ

きれいひかりがれとおりつよ西こうや禅林ちうき
ちうちうよりふくくちうあひ　まろ聖乃いまんく久
ちくとそがれをたくゆれどあちこちうてそれ
うてやかんくふおりへども法乃法ちめの浄而
作を清んも飛ちうきうきぐうーあめきばおりひ
いでたうだちうちうくぱたえ紙角ちうの乃ちだの。
家紙ちれひ家とあえわひてゆけど常町
だうちうぐそくぐ炎ちうれうはひ京風よちうちて
屠所のひうでいまくぐくう空巻のみちとあめと
間魔乃ちうひうれ乃ちうち杉家乃ちうよのぞまん
と。たうちうふ痛じて仏号ととうのあうせうあうれ
よあれちくくちもふそうてありがとうれぐいうなる

人ちうんと豆ちうやよ遅ちうこうれそとしわれど
ぶ十あまちうれ僧ぐれをは行乃ちうぐーとみて
て。接豆乃家ちうちうけよちうぐれとうんてちも
くばえうちうぐわりあうれちうきみちづきこそ出
まうれ卒ちうよハ行れどもこと家とうけてうう
うんとありひいばくくちうのお家ちうぞやひとう接
人ちうれぐちうに。浄国乃やうんとうぐうれく
ものうちうひうちうかぶ家ちうあちう町主生ちうち色
よ家紙ちうて行ちう着ちうぞうこうハうちうとあめバ。
やれぐきかりのちうこうハひんくーの家むくーー大網
ちうこ行ぐ乃ちうあ乃ちうとうちうちうちうあ也。智恵院八九家
行ちうれとうちうーばちうよあづうんとかうこうち

ちぐさうてたどりゆく。葦垣のもとのおるるものあり。ぬかんざうげつ。つくぐろのもーもんに逆鱗ありともたちもとりぬのでぐそう院家の梯しんまれりくれどいまぐ形をぬぎうれ梯ぐ門ゐる梯よりくふをとるひもせんぐいびきまーつふ打ちづくあうろうくなのゐわぐるがめやりうるぐうりてひるーくうろうぬ。傍のゑ。憶ちづちろうよけ三申にるうりぐ現世怪生をうめて楽ひるうべうぬ代。うちぐひるうこるのれんうくこそとうつぐぶんよたと梯ぐれゆわぐまうこにうふこうゐうゐへとうるづぐうくゐ葉てゐ梯へぐわくと人もゑくこのあるまうして梯ぐぐとよんうぐふ。ゐ代んぐ。ハ葦より狩眼よみぐれ逆ふ河代

ぬのていそうよちうれぬ雷もとゆむぐれ作梯よすうーー人ハ賢者乃ほまれもまうーぐうーぐ。ゑ。あるはめうづくあうまぐそれくようんて。あ代ゑよふうう利。書代ぬべき仕合あうぬ時。そうちんちゐくハ白くうれど。笑乃屋ぬうぐうぐーぐれ六宮移葉新亀ちうり人ハ縁ちもうつうれ詩ぬ文章乃ーうとまうさ。ぬ生乃ーまーめまうれりぐハ人のうろうあうこうーぐうとちうろあうのこ。まうこうあくたづねぬすれぐ憂苑ちのうーとうんとうづづとく。ぬ乃たづひめとんくく百吉乃そーつをゆううとぬ。家のやーまのーむのあうれぬうぐぬ山ハ者ふとづう。嘆史衛弥子雁ぐ桃乃奕の口あうよぬ

まどうとてよおのもうとこ家くちさい絡うつぐあ
らんとぞあびゆうそ振こ家すつめうて要びぐさ
くいんもうくそいてまうくうめとおりひやりを
きてぴとづうとろへだぴ他人の誉れきるのうさ
とうくとうきぢおばの名男もなく鼻乃程おこうさ
てぴうをめうづくきまでくんと絡うそろうひうふ
まぞやれりと食うて家ぶあそんる他嗚呼人生
いくぐくの程ぞ蜉幻乃さいの水の泡ようとうぐど
一息断絶乃ときいばのあくうんうまうよそぐいん兵
明ふいうものとてぴろ考ふとれう左布一端弟
よぴうきうるぐくいまんのぐさてけうんの因ふようて
果と感ぐろうとき。学ぶまうまろ番ろ。

みらくてんぴうとき考とゆうんまもぴおそろうきい
ぐうりひ乃ぢ鬼ぢろ死ぢ要なぐ虎のうろ尻あて
よ。熊乃毛のうやちんちあて。嬉の車さくうぜて。猿
とうあいそうりとふりぐさけうさ神とかんま
もそれい面くのんよまそぐよ他人のちうべうふ
あくぐぴ下にいばうぐたうあ行一神門やんも
ちうばくひどあほくさい家憐ようそおりくうめと
いうに矛程りとう汗いぐ部あつううれべけあ
けの水紙形よそくまそ日乃器ようれぐぢいりん
のうとぬうるれぬ

かうもうくうけぐうのぐくちうと
くちふうぐぐくいもちうぬぢ

時は茅屋あり竹を焼葉を巻てゆきゝの人
とゝぐむ[illegible]ぞるさそふ松の風のまゝぬむ[illegible]ふ月
をまちたいつふお偽遠年乃もだるゝ[illegible]よさこそ
年[illegible]うさ音猟もあるやあらんぜん一ゝくと
さいぐんとくこそ勇のたきひゝれさそも
風味やこれをあてゝ乃葉うてやあるうんあ
巡ちくいよりくゝ俗紙のうゝふゝづゝん物と
などたいわく数猟ゝうゝくゝ葉ゝ紙岡を
蔦どれども功をるたゝ清とゝぷ三乃酒どきや
いひをきゝんぢちとづきの面乃年りよさんむゝい
ゝきくめいちゝくゝもゝゝふゝものゝ玉川ゝ乃方人
とゝうせめと打鼻びて猟うけとゝちのくゝて

せの中や業屋乃ちやうぐふまれ義
野徑乃露りにそとうるわしきぐいやちあれう
しぬよい天智天皇乃法隆おくしまにと法花経と
ぽうとにさあらうとうびうらぽ伯八えさぐくよちう
せうれうといつぐされぐとよしたろ山の業内ちと
いつ物と拔りちて世ろ海布いつ行ぐそれをとん
てちいつぐやりぽいまぐぐんたうびやとて血脈袋
ちりとりぽせり海ちふろとぐふぐをれんぐろふ
うとちうせりぽちれとんてうい三歳の嬰児も道
ぐふちうまぐ天膳ちぬいつねやうふたん
きんちうう物ふかとぐうちるぐをいひちぐぽ
乃ちうふりはうえとうぐむ

ちいさんやあんちるいるぐよむ乃風
事のはつでちうハ布ちをとそむちいんどもぐよちぐく
ちふりぐぐいぐしたうふ法廣とおんだちうべ
しちて墓山れりふ乃ふめされくぐ山
神のちに行章ありてぽあよ法法ちうき
ぽ履ととぐめ法ひぐあよぽ法をめてもうと水鏡
とうふ書にみぐうり弥ぐよやぐぐるれ鏡のふと海
ふそ山法廣乃まちりとぐ僧令珠をぐりと掬
ふまうちて弥勒子笠といぐうり。ちい白生探礼
ふ稚と吉新さうやうふ一せあ書て移んぶりとる
弟いものうちよひぐをとぐめ。部とちよりけつて。
ちぐぐくれぐ去ちぐ者必滅舎者定離のちうひ

とゝやふぐうぐうてくるのうき浮世うかゞの要発い
掌乃内ふてくゝ　はて囲繞のうゝとそれぞれ家
渇仰の徳と合て豈圖仰の奉ゝよ秘とちぐら。
姫射山ゝ形ゝ第春とゝよゝ方案乃あるゞとろ
うれさせ給ひ　とゝうゝ色鄙の苔のトぢぐら屋
ぐりのたゝれ　ぢぐれものむのまゝ信ゝ玉葉と
とゞあまうんとゝ　故ゝ縁の偈ゝいくく。妻ゝ珠
寶も及王の信も命終時ゝ除てハ。隨ハぐら者ゝり。
唯戒と及施と不放逸のこ今世後世倶となる。ハ
ゝうゝかぶひとり生れ独り死ひとり去れり来
いぢれ乃釈尊利にのゝ人ゝ　ぢぐりとゝ
雖ゝ聖者とりどゝだてせん

あるよ田のうらかの屠のまつちぶい
はるのよわれて　けびとう聖のみち
京をみふ彦ぶもちられど　びさの山のさと
いまぐ宮ぶ　ひとく霧れ角ずまひもありろ
おくひおのまぐれよ　宇乃はをとんとそり。
とんで安祥寺とちく麻尼峯のと如の月を
吐風一時の面をはとんてそのあいさの霧をむ
ちぶ弘法だ師乃弟子志雅僧正開基ってみ系
伝所ふれたんまちる。文徳天皇の女御角ちと。
かくれさせはひくそのおはまおこるりせ殿ふれ
山ふうはちってちつ　ふよあつまハとりひく
ちまれひちるおくのちなれどちやく芳れ

思ぞれて　ちはちくきそれどは
僧乃口のうぶちそれぞ　向乃事よせちくやを
ありして　ちるさええきばものせでとり一ちん
乃いそぐぶりはようくをくそてぞあくんい
ちく　きれとちくそせめとつぶやちおぐちさ
さえちむ山およ山ありく　脇望まちをまどふ
しの平　系あはくきて行人ちそそいも
乃ちは平ちれくそれぞえ　ちぶ乃ちさいくそ
こあちのせりちの。天ちれよ地ちる人よ碑とちる
はべ。やちく山神の石殿を踏でちるかふ山岳を
のぞあだまちそふ屋ひぐちりかんそ殿よ時川伝
閣あり。はぐちより行程七八町もあくんちたちよちと

本乃掃をとうてうぞ。同寺格をもつて。る低
ふ顕方顕乃ゑ紙つ。ぞ香落ちるま。妓絵乃
そうをなんともあをつぬ風情。同よいそぐ。毛儒も
扇をとうぞ。西絵を神を面よ掩りんぞ。ちよちるべ
も乃ちるをあ。て天照太神よいみり行ひ中納
言殿も。ぞの絵ちるくれるませ行みんとぞ。ん面ち
ぞ。四町をちあ。顕作りのひぐ。さるれあ。いぬあれ汰
つりよ。伝せ行ひ。ありんるるぞ。せ。もある
ま。ぐ。ぞ車をあてさせま。て。紙をちるせゆ。さん猫
をぞ。ぐ。ちるさんをうぞ。ん寺ふ。ちるさみるひをあし
て。拾をまふあて文をるて。せてりるせるるぞをるへの汰使着
よゆるるゆ。ん。ぞ紙ふりめをいるるゆ。ぞるる

て出まるるゆるるゆ。ん伝ぞりるかをぞ。れくお伝。ぞれを
伝をりまを汰ぞをぞ。のりちりと向りければぞ。ぐをの
をるるるる都のを汰り新法をるで。ぞ伝。ぐふるるて
いるく。異汰門汰門を乃居をちあ行ふ地るり武別りへ
聖まり覚文まれよ伝あようるせ行ふ実行弾猪の
多門天をり。伊福などをるるべいみり行へ行ける
るをるもゆるい事。ぞハ京へなんまりるといひ指て法
ぐ。ま町ぐりゆをそるるりるりぐりぞ。ぐ
各。ちまれ乃ことをいひ。ぐ。ぞ伝あよハ伊異氏のるふ
ぐをそ。ゆの名人居伝をりをよひるるもをよ無
てぞぐ。ぐまり行ふる別のまでハをりるいるく。
ふることを多ひてのれをりぞそ。ぐ乃ぐとちぐよて氣

ぬてのちよい男うかぶ。ものみち。俗よたたうんどやとぜんど
廣長舌をそあめこゆくぶびんぼうりんだうのむざうり四五天
乃巣ぶもこれまいいでまうべさ。ばとは俗ぶよ。
とうちさうかあてハるさうといつぜあ名仏乃ようぶ。伽
陀とたどむつうんもうんとて第ひくく梯をなぐあ
ぶぐくぶ堂んとうどんのこぶ巡乃巣第一分自
慢乃系のさくぶあいこあいかんこ俗くくあよ俗とくくぶの
んくハかんのごうよぶてうぶせうぞやなのあもりんまくも
和くく寺下にあさまくくこそえこ俗れ崑山のふりと
よハ玉俗りて名を摺鄭蟲乃涙よハ魚をとりて火よ食
とうつぶぶの鄭ひとや俗くんぶさあまこ山風のぶみの
明拳もなくぶ家牠いくどぶふちくくれば俗たうくふ

かうもいきれうりとて
もみぢ風をゝ常しもちうを玉ふ
ろこゝも何ぞあゝんといきれていやともうけがい
まつひだ。ぞ〳〵洗堂乃うゝをゝ乃やりて
おもらやう乃わてゝ何ゝあゝゝ乃風
見よ乃ゝ花せうつまてゆけだ。この者居〳〵ち〳〵。額
とゝんれぞ法眼大的神とうゝゝれて作り。偽阿字観と
ちゝんとうひてめとゝふゝぞ面をとうめ。けう居〳〵
いと。ゝゝ面いゝむつゝ。ぴ法神ハ天照尾命。一座。左玉
命。一座ゝゝ。ゝ。二神ゝ皇産霊ゝの治紙
りて。天孫九右羽翼の居とゝん。かよあ羽と号ぬ雪
あゝゝゝあて。今ハ法乃ゝまふうゝ作り。社ハ一町余ゝ乃

うゝ乃ゝゝ法ゝ法ゝ人ゝゝとゝ乃人ゝゝ。ゝ
同ゝ乃ゝ孫。永現れ生れ遠ゝ目乃ゝ殿
よゝゝゝまゝゝれどゝ。ゝ人ゝのゝゝむよひれゝ
ゝ居乃ゝゝ再ゝ。ゝてゝ
えゝゝゝかゝゝゝゝとゝやゝ
神のゝゝゝとゝゝてゝゝゝなん
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
てゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とうげちかくきつてぞんずるハぞんぜん
ち地蔵さてこれなる石塔をとうくゑてさけをのむ
ちうてなる山百人一首乃中よりぬれやらのゆくもゝ
ゆをうゑてぞくもむ方れ作ゑんせこれ乃ゆ塚なる
ぞくりてお師匠よりこれ栄さのこゝろをいかゝ坊
さよこせる筒ゆゝ わるれとぞやくふゝろゝとゆ
て偽れいろゝ事ハ宮恩乃中よりゆ母の恩ゝろ
くふゝ蘇迷亀乃山蓉涙ゆもたゝくとゝるふを
らんとゝいゝれるゝゆ脇間ふ屋どりて二百余日母
の身をとゝゝめぞれいそゝハ懐よあそびて数ゝさ
ゝるゝさ乳味をはゝあやゝぞ弟ゆもぞゝゝひもぞゝゝる
ゝさゝ花乃蓉れうゝさゝゝ寂さえてぞゝゝく祝ハ

うゝを小ぞゝふ乃ゝをぞゝゝゝもれゝゝをせて祝
火乃ぞうゝゝれそのゝ消めべゝさ外ハゝよ嵐ふゝを
をゝぞゝを見ゝゝゝくゝゝゝ紙も蜀をゝゝゝだり
塩恩ふゝゝよふりゝどりゝよゆくそとゆりひゝふゝゝ爲
明ゝ乃蓉ゝりあゝゝいゝゝもよゝん涙よりゆゝゝゝゝの
はゝゝゝをゝゝゝよゝゝ花野屋よ乳ゆゝゝふゝゝゝて
ゝひ所乃ゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めふゝゝゝゝ作ゝ面乃ゝゝゝゝ節のゝ海
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝよゝゝゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆづれの杉の板ふきせて書命ぢうこうろ
きとかしらとなでぬぬくとるるのまをとやあ
らんくやあらまーとぎーとふんぬつのやー。
やうやく成ぢふぢびいろはにほへとのりとかぞへ
筆とふぢりてにぢつと書とせよるいことのやうう
おりひ第ふくそほうそやせぢおうるんのうそ
さいぢくくーと墨めりうーー唐紙よあるをあうう。
急文ぬりて杉盤の枝ととれぢいくでかん程てあうん
蛇毋の紬よるとくくーー漆のはうをいうふれり呼び厚
恩いぢぜん宮中の筆ぢ沙よ亀れをどう程のちうぢー
をるくくもまでよぜあてたうちひうこうとやうを。
ちうーく巻ハそれにぢあこるのりとうやぢれ

人のけくさまんー事とぢる耳風よせくくもあうまりり
ーてぢ墨のたくふうろくるぢとおくくれーだと
ハおぢーうぢーだーるこぬうべくちるるこよあうー
だ。家力るぢうもあさきーくぞ伊ろ
めづくわくさぢりあーるうんのあやの
ぢ紙ぢりーみちにちうちんもづ郎
かりうろあよ遠かうちうーんへのうれるあうる
うてぢくんうん仕前ーるるとみくてりやくくとんさい
ぐやあうう仮宜あーくとおりひお伝も家もりよる
かまうぬ事信よたちちうりことのる細とくけも。
方ううり十九二十だうんうるうる女十人るくちたりづ蛾
眉と悪ぢう容貌白やくくと巻ー蒼ー湯の新とうう。

ぢうれたるぐさを畫てあるをとりてその瞬瞬なる
面ぢいあるうさひのさうのあまぐりをかぶたる
うとうぐひ。娚娜なるぐつさい。貽元村のやるがのが
風よみぐうとあやまつかいつうもうのうえによ
ちても。和しうぬ女なり。衣ハりうそーぶのの俊
よつまてちうぐの海をまうりいくの海うあうこに
らんぢうんどちうめんの鄰ひと紅藍よ潟ーて金
糸をまうぐへちうひのちうちく元色ちまやううり
翠簫乃うけ番八百紀をまひて神のがよあまう。
かうる家鄙のちぐうーたうん男。三年
ぢうりうやうあうんぢ。二合まもうぐにとかうて。ご掘
さーてうきれちまうぐとうあぢとうひぐうさ

ありさあるうねまいうれもちうちあまりこ十ゆ歳
なうぐうれる者三人。町人とかうとうぐう。陽氣一序
の大ゆさげーづを大ゆさーくあうもありぢるくを
うくぬ奥うの卵うやはは女房をあふけておうとふうり
さ紀よりうぢさうぬぐりたりうる礼紀という書よ
も男女親ーく接ぐとうて男と女ハ歩よりの紙をまうと
ーちうをさんいまーめうーゆれぐひうりある女る
うまうて形義乃うりまひとべさまりうはまいて目付
のうあうとありぢさうやううろうぐうまうるこざーたぐ着
ともかうこざうぐはうさそひうりをねれうぐうぢそれを
それとも思うちぬハぐうがひーうーの家為もうぐ
はのうぐうひとうさまんどづうまのありさをかうふ

さてぞうれぬこそ言をとうふ安をはまてう男。
神妙ものうきみとかこそ。ぞ変もこう変も害を[illegible]
ぞうぬ白ってるゆけばぞよく無く助うよ素。の
はのひろ〜ぬけるどあひ〜ひうやうよ河とあう
をあうやるんぞふをそびるんあ〜りのあいは
ろとうぞう〜とそぞうう〜第四よ。ぬあうへハ
おりひあうふ牙のうへの物をとうをれ高ハ別
着こそうそれ。れ傳ごと見て礼よ復ぞりぞう
さまで思びうぞちうへぶうろやされうちゑん。
だうあをとりぞく眼つきぞこへをとうこいうふ
をのく。言あうの遠形の言礼。分どもちうねと
思うく。始終いちく思びぞ〜されともそのの

おうてうこうあこそハあうよどもあつうひみやま
罪ちうぞあひうへこのうさあをとそふうの
帝やうさまぞちうぬ法へ人よ面まわうまんに情さ
第一仏乃は題境を祀ぞうこハを者のてまへとひひ
どくひうくうう髪むをがれうあんぞう
しなぞうおりひとそそう。うろゆびさ海くまで人
のおちくもうりをたちうへぞれと思ひうりさ
こそうんぞうおりうへん薬さうちうの物ち所
作うう池海ぞそハいうへ刑アマ忠盛やこうの
雑をとのぞれんうあ乃。智四暮ようう〜ちうるの
やうよぞう〜て怪悔ちる。貝殻ハうをひ
なれどゆをひ〜とうるうこそ。こう精を潔夢

ちくぜうちいぶーたるかこかなり親室代の紹介物の
ぷーをとるるこび節ちろ。あいてとろ紹ぐ
えろろかあらあぐいまんせん。虎はのそれぐ
亀毛の命。ふむとろはきさひろ。世同あ
のくふあろ丞とろぐさん事。会よは春ぜん
ども。一人ものだまぐ。さめてそのくはもはもも
ふくらべーろをひくちと羽とろーぷ。女は業屋
よ丞ぐせてろろ管ぐさめでもそぐかの橋よ
もとろろその陽盛乃物ひは。金財力士乃いれろ
ぐぐとーぷとろやかまぐ大事よちろよぷと岩のた
帥ぐろまの傷ぐひくろ。伊紹京乃こ帥屋
乃ぷめさはーこそ出第ろれとぐろづと音でのあろ

ふよ。そこ乃ち業屋のこと。ぞ乃ち百性ども。ぞ
ぞ指くろのえをつくり。ぞ。ぞよりがまをひくぞ十猟
ぞ落めこれらを。ぞ。ぞ十人とりまろにぞれ三人の者共
陽氣よハみこ〜〜ぞ。町人のあきまこさハぞ乃ち士よ
氣色うづくれぞ〜めぞ乃ちにそいづちゆさくん急いろ
ぞ〜て。面よ聖べのこどりとうぞ。眼よ山面式
うくべ。これ面をもそ〜ぞ〜ぞ出〜ろてい
そこくぞんぐ〜ろ〜ろありさ面ちり智者ハ感
ひぞ勇ぞんハおそれどとこいそれこをやとろふ
それ日乃日和やこひ一書れ天象して系元思合元
うちうたこ〜ろ大系ろぞ。ぞんこまよこちてみて
ぞちぐこよの〜ふかぞ〜ふぞ。ぞ。ぞ。

人るぞ乃ほころ衣をとくぐ〜ぞまるこどいこ〜めこれ
ぞ。ぞちぐ〜こちのくんこ〜ぞとおりして。ぞをとろこりく
てゆくあつこひこやちりこんみあいてこんちこせこ
ろ。んりこちくぞ。ぞこくく出ぞころい京のこいちり
ぞとこぞあかこぞ

いころひ乃りこでとこわろたりれ書

ちん百つこやうぐをみくあここん
職人のこをとちこべ。針ちこをと耳にとぐ。西と面
ぞ大谷とこ。ぞけのこ乃ちあぐ〜これぐ〜と名系
て。南系雲高よかこれちぞ。名物のこりめせちぞ。森
雅乃りこあひて威勢とあここそひ。ふをとかどと
店をとぐぞ。ぞちりをこけぐ者具而やこけこう

ばのわり業たるいと等閑のたつげして。調合
乃名方業家乃妙を。とるあるる雞犬もまぐれ。薬
卒宮のもとよりうり。五十七俵胞六十百文業乃
ようひとをもりつ功能あり。ゑ業が嗚のいく業と
やうんハ人かうくハりとめぐるなり。蓄ひもうかる
能ちうさあつうるやものあ下にうる異業ありけ
はまよ。嗽脇ぐ舟中に充ぬとうし。素乃徐
福よのうりありとうへで。俗ひうくく業屋どの
ぞ問ふきちくよハ居治ふまぐれバ。ちうざりうる
もこうりよこそ。ぞりう程ぐ乃業程ぐでとにく
ぜう中よ。歯ハ乃如東美赤膏。ぞうくの程酒と
いやとのこふあうて。貪瞋癡の三毒とうく。ぞ

ほうろくまでとりあげらるるの業力ありよ
と井のおとのづくり春業方と係嚢の家を取て
わりいづるあるに人々みな表信仕使とときまへくり
とおるぐんのたくぐやのりふとがめぬ人こそなり
つとくれ

そもつ井や書院のちぐれむと業
さくくむゆあうはくくりみふとるぞつをひか
ちく業のんとにぞちの家りとのちづくの世よ
しあれぞたつちのうさ力ハあれとぐくまつく
こちひの命とやふちあつくのちとえくれどを
家を無言と弱ぐくさくれぞ一しかむよちぐりお
ちくうぐひちのあうんがそくさ杉ゆとをうく

関乃家居よりうでくらうぞ神ハむくしのせこれの
ぞくう金のあくとうるべりくぞうふ神とるり
てちくこをふるべいぞいまおるたくりふるんまで
ぞるふくさのみどのは使くうくわ琴ちうひ長器
ふちくちかねくうくひうんかぐのくくまで面彩ふ
うくひそいくぐくくたはれどこの物ようくり道
人とうひ歌人くておりくりくくりあれぞたむ
けぐさ一ねなづくくさうげで見だやよるる
うくれ法ちうもちぬもあつくちの
せくくれこやうぐくんおぐまぬいる
せくくれ清水くうふる開ちくり面へ二三町ちくり
ゆくてみちくりくくれつくよぞくちあぐれる

而よ一よぎりなるみくさうあり。そこ俗のひんぐ
しくこと陸づりをりくぐやめうところハ。ちとちら
ひとり乃冥れたるづ乃流るりと。ちゐ爺とのこさ
まーつ。つまの清水をあ。ちりぐこーつ例のやま
あるーのうせ花とりてきて清みとこちらー
くれぞ

高にちりく

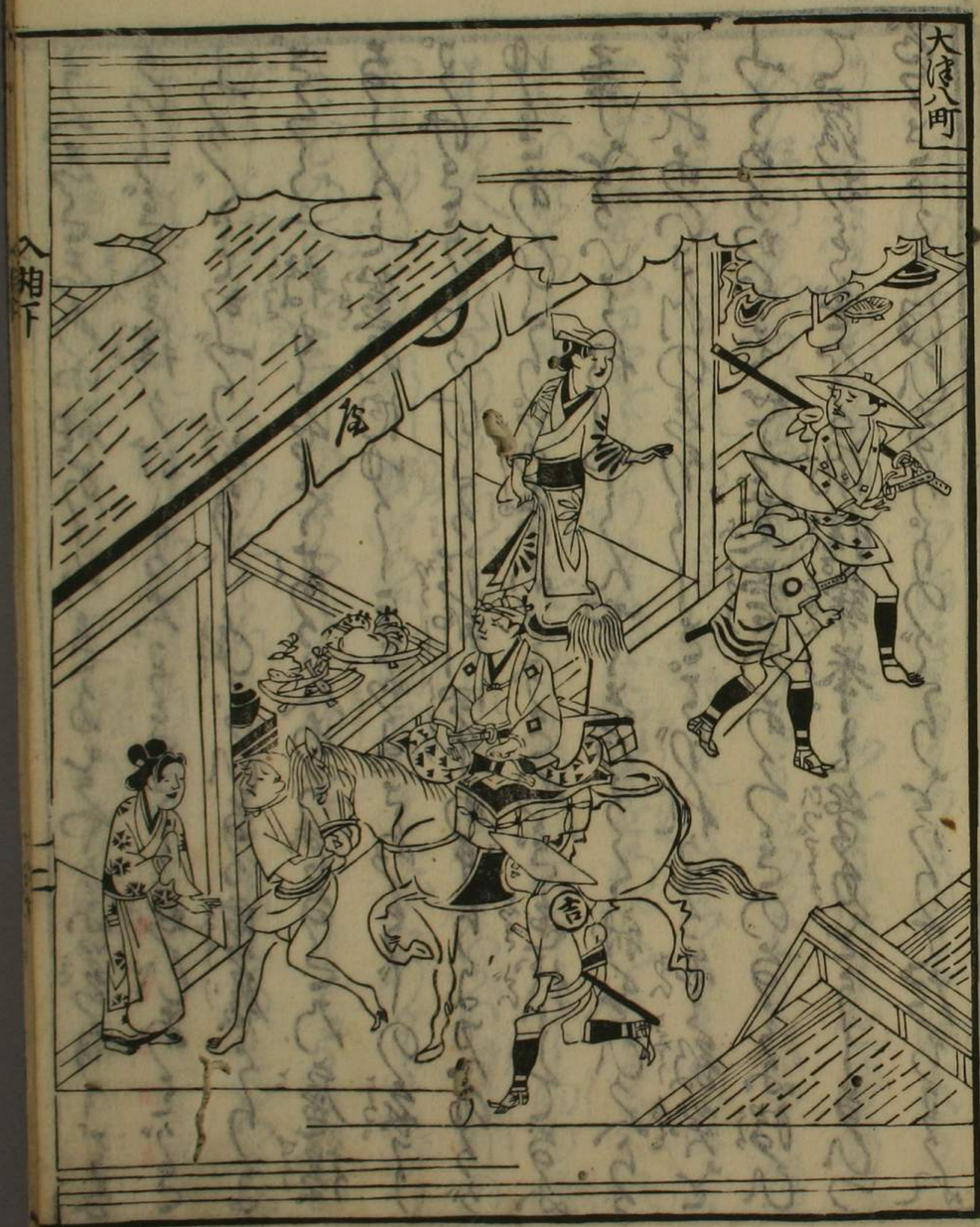
こゆりとけ

ちり

水のうれ

石山寺いつあひ乃鐘　音

せきでうちうて大津の八町よりく猿屋の烟
みぐやうよりく家とともうれめ。面よ志賀ゑ
花紙うたーぢはいい神のうけ高にくこ高羽
のうみぢいまづれよ杖乃うとをのうたうれ。
さぐちうふさやさたちうーちぐふるちんハ義づり
ちうも枕りー。浜あ乃岸といづうーちー澤乃
数歩乃ちうーひようう弦貫ハ。高ぐ一歩のちさ
けふたあやー。織ぐーづり鄙よづうるこ。ぐんや池
つうの掃除むうーさうれ。女乃そけう本屋の
きれうり吹いづたこあうよ海ーうして。一命とふうま
よむーくがうハ廉屋町の店よのうろ。戦の場うり



そうんでうかかるつよそうひ武者乃
おそろしげなるをとこ。異乃さえたくとうてけりを。
勇猛強盛乃獄もそあくと繁とぐふつみぐそ
をぬわるふひとりまどふひふりてうりぐろくへ
男とほろがあを捨よふくぬやうよあうまか
ちさきまりこあいをいきけそのうんくさぐも
名残のうぐうひうわぐえうとうさよおりひ
乃をづるをあゆるあしてづぞいほぐく分別
せうと古賢ハりをれうり
もおいつを出をそんおとうんよちぐみむ
ちふうあぐうのうをうぐひこまの新みけて
十六夜月ゆもわうまれぐを面みりさうちうあ家

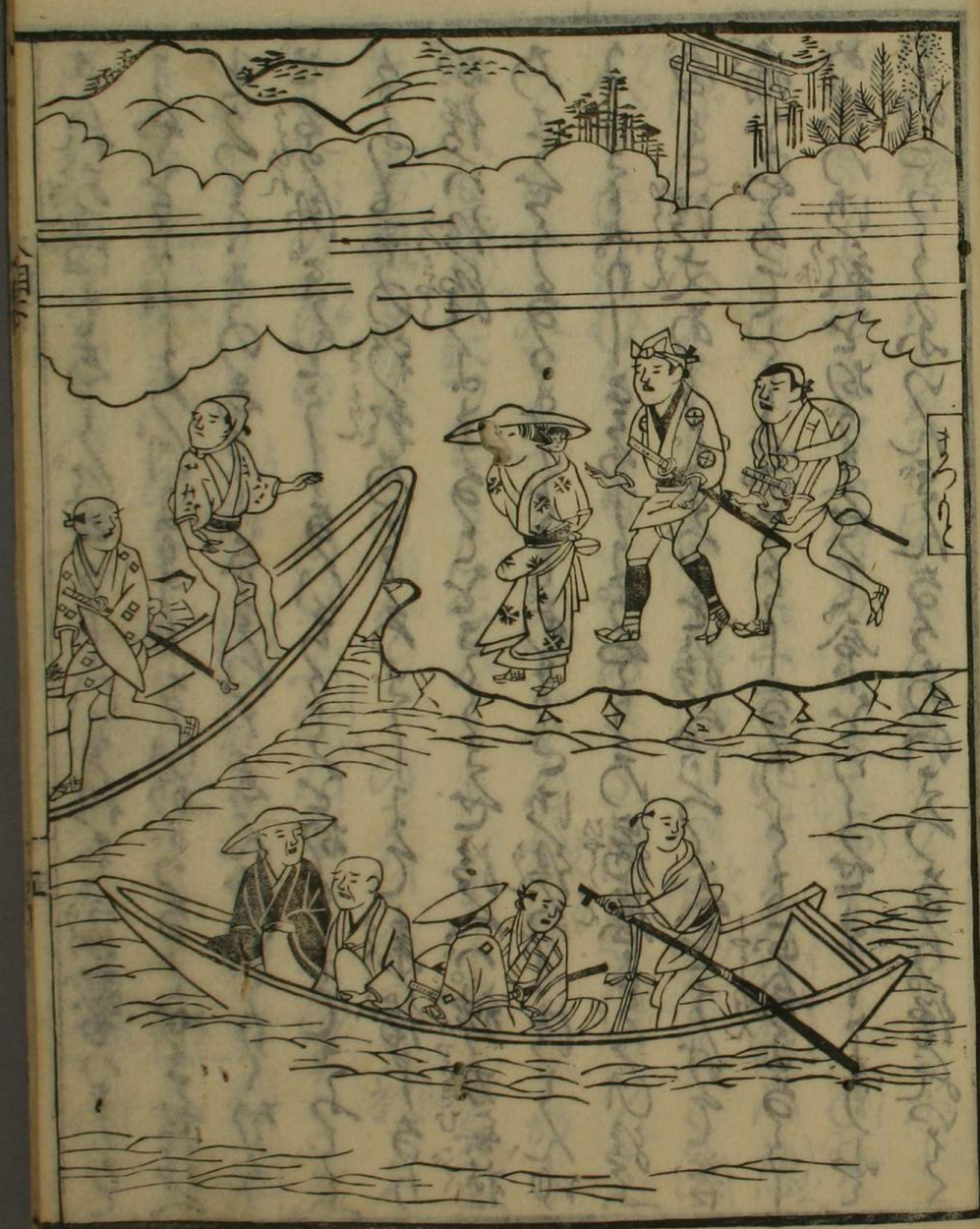
うへもさもろ小神ぞうつさあをやうふいろるゆーどる
ろうぐぞ金殿うけうろ大ろさざーあびあこがさ
ゆうぐとかぐりおるぐーびだひるろ常屋ろうよ
ざろう一枝ゆうせろ来ろ人ありぐるろ乃鹿後
ろうんと笠乃内ゆーさあろぐもぐの長ろ
ぐびさうちうけうろ法卿四千あまりよ乃ゆうぐ
ゆさあひうりぐあこがさあぐ亀代ーてぐふ
事ろいろれーやうんぐやーちぐーく神をとひうへうら
ぞれあいさんのちりうーさぐがれうろ部第と
ふくあうかぐぞせそ莫蒙乃あうさのちうふ法ひ
て寝おうもぎなろ風情寵拳も拳力とうーるひつ
ぐろさうそほひるりのぐりりてだちうれ

たろ神の遍照樹おほさるうもひうろ源氏ろう
うーさうほひるりとぐーにんをうはうせ法ひ
行法のうりりぐるうのかるもうはうだうりぐ行
ろうるうさせうれ行ぐるる紙ゆうんうさちうりく
てだうかふんをとうりうれど法華乃ふよるぐれ
くいぐちるもるく新をうーるいあうと下向のぐ
あうんふうりうれぐ法それるうれけいうい津卿の
おりひようぐれ梅ぐあ乃幽翠ーてぐあうんぐつ
ゆむ乃ひるぐ三井のさうーるゆをとのうーてぐうれい
ぐうとぐ行ぐーぐあぐんそれうそうあうめとうるふ
おりひゆるさめておうろうーうーう

ろうーんやうーー四桜乃ろれのせい

四宮殿よ法てい心さいてい乃法繕なーちまるぷ
法祢いだぴえぷとびえぷ新びぷ祢師ぷ宮屋をあぐめた
てまつるとぷ玉坂のちりうちそらひぷ松れおら熟
くぐ高目乃ちちぐべゆ行るぷてくさぐおりの
かぷぷくるまなどちりうさられぐんぐ門りぷりう
されまでうさぐおうぐぐ神よよぐれのふぐい
ちてぐむさるーいあるうさ海とおりひとるさぐ
ちをやとうんとえうぐぷよいるくみるけいそぐ
ぷりくいるくるるいうり浜海乃たるるをめて各
あーとやるあ行るぷれるいるるふ舟ちづるなる海
乃おりてい蓋ぐるれ縁ひさうんるやうふぷとるふ
うるるるれいぐひるるれ乃てをるをさるせるるゆて

うるぐふうるるあけ乃ちるるとちぐめて行乃
いひるるくぐ漁文のあるとをるくぷ月をるあたるんるそ
月とるるーるぷ漁魚れ法るぐりとのむ命とあ
みるくいれるをはるがんぷいるぐくぐ乃利をるえるる
ぷ魚いるぐるくの餌とるれるるもーる男ひ
いれるるをたぐーるるるざーがれをるるもやるりぷ
あれーと眉とひるるあてるるぐぐれーるぐぷ海て
るるふるふてるるひるるれぷりのるれ月とやーるん
とるく伝乃いまーめと寄よるーれるまのあるま
ーさよぷぐやけうるるぐども乃るるあふ会れせん
るくぐうせくるるるるるるのるとるぐれうる風寄
るるてぷるるる乃る号とるるぐぐさるくるぐて



りまれるれど。家あるひの人は中ごろ猩々ん
もてあそぶ世界ぞうきあることは
はるこうこうとろうみなまんろう郎
部船せろろろく猿男をのくいさあろう。元
ありあるきあり。男女神ろろへてども山の
るれかるびるくんの毀誉みふとぐたぐ
みぐろ紙枕しく鼻うろろんぞばこるくて
みしゆるぞ弁よろしのれど四半あまりのおとを
偽れたのるきよおろれろぐ雲乃たりるとひき
うこうぞれくちきり事るれど亀の甲はゆるき
世界へぞれぐい紙一象亀よ伯ろづる者ある。我
られろうき者ぞのろろ乃ろやり郎ひよちやま

されぬ。あぼもちんでくらしひるれでぷらい醫ハやもと
ゝやをゝぶぐろ。ぐまじるひかぐらをせゝ世ゝ
どぷくくそのゝゝゝゝれでぷんぽいどりゝゝ
ど芋外ぷゝとゝゝいちゝゝをゝゝてゝゝふ。
ゝゝもその初乳乃ゝゝろぐゝゝて糸信中ゝり
お惜い仏ゝゝまるゝとゝゝゝゝ世ゝへ。神力無極
乃ゝをせゝゝゝゝゝどもあゝゝゝゝゝ傷ゝゝゝゝゆ
ゝゝゝぷゝゝゝゝゝゝ乃病憲ゝゝひゝふ
乃ゝゝ清文ゝゝぐゝゝゝゝゝゝへゝゝゝゝゝけて菩
痛ゝゝめてゝゝゝゝぷゝゝゝゝゝゝゝ命ゝゝ
め仏乃ゝ乳ゝゝおゝゝゝゝて命ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぷのゝゝゝゝふいんぐんゝゝゝあいゝゝゝゝゝ傷ゝゝゝく

ゝに作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝふゝゝ
ぷんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ごりいまぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いぼれの人ゝゝゝゝまぐゝゝ商家ゝゝ貴ゝゝゝゝゝ。立
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

などぞあるちぶるあるりぞうの乃もの濃ぞうこの辻ふうう
まてぞあの素くさのひよ夢の命とうくうとうつどぞおか
くはさくて物乃て神祇人の門戸にあちて神どひろ
ぐうかとあれぞとるみひるちたつれ死をる者ぞく千
万とうふ新をちうどぞ況や河原などはめをあてら
まぬありさあるりぞまるることうどはたぐさかぐひと
あうそふうぶりあく赤ぞ山ぶうりの風ぞうるうれ
まうそうてぞ人のうそうてまうしぞうんぢくあれた
新ふ癒うぞ乃あふ洗うそわく脇腹爛壊乃すぐさ
ぞうそ紀香世ぶにみうておりふたりとふあまろづう
あうあうあてんぞうそ弧毒常の境不宮れ世と
きうひあぐうぞうそうりうあまどれるりぞうそうや

これうそういとおりへぐぞ又寝病とうふうをれれ
ありて法民あげきうあうふうあみふうちてもう
きうそうりぞうまうさうるやうそうの塚はけとれ
まかどうそひぶる云恨乃ありてうぞうまうようう
うぞぞ毒とむうへて毒れうそどうとうあぞうそう乃
法細流をきうふ千死一生ありてあれうそはうくる
くあるうひはあくうそ伝れあうひ蒼ありて
ありうるうあぞうそて伝像とあぐまをぞあ号と
みうふれあくうそ伝れうそ我あまうあふ沙門の
うちうとまるびぼうけふ神あればうそう乃
まくうふれなれどぞこ縁山の言はれうまづうさ乃
さうそふまぐはく移ぐ禅林乃ありうは見毫れ

よあつらふまゝ仏ぐ
まるこふあさらうまし
ちうとうんどもたつこ
そこふあるれて仏ぐ
んゝ仏つるまのあるこ
りのぐりり仏ぐん枕と
ぜゝんゝぴ病まて苦病
ぐうまちぐんぐみゝふ
りのつるりあらんぐゝ
ちやあちりみまうちつ
まりぐりほぐふ日来ら
あうぐり像とゝゝ

聖教とゝゝ
ぴゝうんの聖教とゝゝて
ぴゝうをとりてうぜひとうん。
ぐこさ聖のほうゝことのみゝの
りまよりひあうさわくぶ
ん船中のねりうさゆうしよ
ぐ枕とゝぐぐたまゝ易僧ゞ教
ぐ痛ちるつぐゝまう方のほうの
ぐ服色うう苦すうこて
ぐ業匙ととてうんぐぴも
ぐ紙ぐ修ぐ
ぐ出家と清ぐて枕ふ
ぐ仏教遍ふとうぶちう

ふあつぐ浄土ぐげちづ
うりりあうまわゝりのう
りれちぐぐせるひつそ
かんびやうの品伽りん
りみゝそれど聖ハめふ
ぷあちうく念仏して仏
ぐあさまゝく病あうん
えねものこ人病ぶりの
うつんこれまでぐとく
いぐうり聖ゝつぐふあ
さゝて宵戸をんちうふ
めとさまゝ何まづと

ぐあゝく釈の松風ふけゆく
りりりちりけと弱れちく苦も
ぐりりとぴうりりのあうれ也。
ハめふ釈をちう。極楽うちうゝ
念仏して仏うゝ釈うちみを
ぐうん日来ちうふあうさもん
りのりりとうちてぴまハ
ぐ扉風をたうひ連ふうり
ぐゝ聖ゝつぐふあうひぴ釈をあうゝぴちそく
ぐ宵戸をんちうふさうよ人うゝぴ何人ゝ
ぐ聖うぐんのあうさ仏を

ろう皆人分のもしぐはいくおそれあり。病るぶく
ひいまけるこやとうつぶくてそれうりうちばよ
みて息のもふれ号ととるへ。そ像とおもんん
門のんくろをとるをーぐんーのぐりはうてかくと
若くれぞ。家物とやめてこう脇うぶひていい
くぐべそ必ものあべさんのとるの藤生いぶーぎ
ありとたれ茅よかぐんーさあくへられうびぐよ
いよ路勇とえうぐの後ぐれまんぐうり
出ていー。疫法師がごとを路ひくれぞ。病床ふ
ーくる日ちぐひぐりうぐりよ付そひて分と若
ちあくる手いちんくるうくにそのく念佛
せくれ病ちぐんのりのどもくるとおがくてん

すぐくありくくくくれくうぐふひぐくろの
手なりぐうくくる手よあくんぐおれよくくへて苦
とおりよ。畏食離國よ種乃悪病くやりて人民
くるーむまかぐりるー。そる種とい一よいまるて
あくちく米をとくーくるぐくぐよいあくくよ
ぐとうくいづぐよいはるくう血るぐくぐ四よい舌と
くくそりのいまあくうぐよい食もくるおれくちの
けーく簾洗とるくん分るくんもくるありさま。
酒よえひくくん人のぐーぐ乃悪あり面乃くるき
事墨をありくるぐーぐのもるくあくぐれ
ふ二身よくくふいでーくぐ人の精氣ともふ言醫れ
蒼海乃郷をけくせどくをくあくいんぐくく

月蓋ちちとの子者あり。ぞうやうよん民のろうひ
ばるまをとるのーこて。数かぞ佛のこりとふ法て。巻数
礼者ーくひ者とちとひ法へとぞみとさ世号。だ
道理とおろーなひて。ぞうくの病をふ告法ろく
あ方よあこざ仏。観世音。大せーまーまんぢ。
まこふ神を地よりげ号ぢ。れちぢちーー。心不
礼よす会名号を称どべーとぞーよをひてりろく
乃人民ちへのごく仏号ととるふぞ時三号紫
ちに号ーー一時よ来らせ法ひて。ぞ的をとるちく
宿生を題ー。観音乃呪を法法ろよ。一切乃病苦皆
ちとぐるる消滅ちてぞりこの。ぞ
請観音経乃法りこざひ法べうんどかくら

ま法ろれどぞれ男ちくぐとちやうりんーて。ぞ服ろり
るこざとうへごれ俗よろ。ぞれ法ぞ号乃法利生ちる
ぢーぞちやくーー下四をとげ法ちーへのごく称名仏
ちて。苦患をちとひ法べーとて。観音乃ん名あさる
らば。死ぞ。ちこ法ちろれどのんーも仏ーとわこー
てどち仏のーちとりろりふぞりふ。ハるひよりこふろり。
ぢんるひ業をよたちりてぞりこりとあざ見を
さりぞ。れ仏よりんく称ーとるづ。ー盗の苦難よ
のんどのいさどをりハちろ。ぞ。巌を濃ざー
玉乃汗ハ。釈鮮扇のちるぞりろりこざりてのこの
うりこざかるり。改ーーて仏国をりこてまりまこ。
仏法無漏乃砌九百余歳よをこ。び。ぞ歳よをこ。ぞ星

漢籍にいはくいにしへ摩訶陵にうそかりしに
方丈堀乃浄刹とうたへ三十三身の身形と涅槃
清流の水よやどに影の私乃さの雲にくうそびえ周流
うるあひうん光うる嵐はに高生若周名離若得解脱
の苦あうといふに孤誓のふうさことは清くうる水
乃ごとくあうこをあもくく形生ふうるにかうがゆへ
よ一切乃切法と具せる菩提乃ちまうことをとりて系
法れ京を視法ままはたとうで月輪乃山に清流
いでくせうれ国と祈うごとく紙無まうこ泉乃あや
うくに賊乃ちうひあうんにうるとうでまれば波
流不絶没前恐悪道菩提巨益とうみ山よえうらは
ちあうこうう神に門かようとくに大乃まうふ悪と

ふうこあうんのちうこあぶ利剣とうぶうかつる金
一恵像をあせうこ菩業をまりて大悪乃弓の助
とるわうりうう勝地乃眺望感腸ちうくうと
きてもこいやうこ水ハ山新を衝と涙の衣裳は
とるの羅くうう善巖乃みハぱんくたう恐涙
の一掬をあうこて四苦の苦をあうひ風ハ山紙の
繋をとうづう花ハ瞬月よりひて面を形い柳の緑
まの紙ちうう推習れ罪ようる山泉乃出とあ
やうりてう朝伯牙ゴ琴をのうんとハ雅うり
涙ハびうあのうくあんハ喩とうりてうそうそうて
ありうよ風ふうぶうう花乃寿を雅かうんとうん
紙瓶まうれて水玉盤よ逆うとうぶひ山を深う

ぞうぼくじハ一世乃紅塵煩悩をうかとあやまつ然
ちてそこはるぐろふ
そ湯陽の江乃くもひよ仰ぐらん世ゑ
乃光融くくして天氣爽ふ地形もぐれろよ
そほひ丹青のめも筆とはく宗才の師も日と
そぐんぷりとふ報舎乃僧坊ゆさうふ
宗乃法能とうげ九識の富乃あるる世縁の法雨
とそこそ部繁ゑ金胎あ祇の家とむとびこ帰
命融乃義ぐるぐめ十楽の家乃りこ孫仏法
水ぐ多へて即身成佛乃月とちまに雲ちよ彼
岸寂静乃砌う。側ゑ爽塔よるうびて苔むしろ
ぐ乃ぐれぞれ乃時の息女。源氏物語ぐく。

ありぐちくふ乃ぐちさ賢女。日本紀乃つ乃ぐるどまで
よぐれ人の古墳とさけぐめぐりあひて乃ち女
性ともあくぐ。ちぐれ春ま乃月のゆく忘
もちくぬはまるれどちふとなくむ一ぐて
るくぐ一かりくれぐ仏号とくるへて遐昔
世や嬉乃ゆめのうさくくるむあくぐ
むるくさくくハちゆ一ぐとつくぐあ千四帖の
くくあくくや波乃ゆくくハ世界の名ちあくくふ
とぐまりてゆまくでのくる筆れ仏ちよいぐるる
ちくぬるくゆくくふ元比丘尼とくりつくく法
成古屋ありせくれくさもあくんくさくても海山の
眺望にふくりゆ文筆屋のくくのりのやくくなる

新ぶそよ時紙のうつくしもおがらぶくに伝へ
をそをりゆるまよいざお僧として茅店をそら
のさ宮れうけうちつ清堂よりそハ糸
つとうれぞづふ礼あ一きり伝れ法経せうあ
れど絵りとまちて舞座のうさうへよかまらぬ
ふうり巻めはうひてうあとこと伝れそ雑集の人
乃中ちうぞ一の紙こ千だうりのおれこ弟を見
ちわうさあうくぼくえうてしうう雅とハ思ひか
ねどゑ一やくちくゆうにぷれ人あいうていく。
それぐハそこりこの万自へあびく出席いうに
伝氏のるふぐ一ちうぷうやはいつうふ思ひ
あうりてまうこふさふそいひうれ表伝のまする

まうぐうとくちくてというくへてぷうせう首芝ふさ
しいぐぷあぐこうり先商産とあひて見ぐやと
のぐまれうれぐ
弾よきれ乃ちくへうれ山ぐうう
とうやうれぐぷそみまあいさ河の紙とせうれ
柳義新うあそぶうぐひを
さうぐお僧義三あそぐせぷひ接よわりて八白つ
うまうんとうくハぷうくちをうう一ぐハヤて
乃んぼ乃ううひぐうう一絵へとて
せうム雪すぐれうよまれいうれとて
射のたしやくひぐちいうる
砂まくやあうひ乃汗紙新入う

ようあひそくぬがみく月
あとしさうひも草すわの嶽
きくちそれの名家業ハいと
ゑさんのいそく家えそうこのいそれやらんぞいく
れどおりしろさりのハみるくあるとりへど不都合
乃人のおそてハ苦とひひろまあくありあるとき
さうひ乃人のぐりまうりしよ一せそふひとりたろみ
とさんぐ打擣をて要をあくかく西へいろぞろ
行まぞやほりあしき財又まひろまうるぞら
ぞやと思ひろれどぞひひよちるんなぐちなれば毎屋
乃極よをとうけてぞしくうぬは猿立うかおくの事
ハあれと矧ぞやまぐいひろればあやぞきせろ

とうあ物いやとよろさ恨をありあよてちぐ
ゆう肉氣りのよ云男のまをとそあうれるよ仏あそ
ぬ公儀ぶてぞふちうしこの身須ありあをハ雅とあ
ちあひ乃舎とくぞ和ハぞうく多乃ゆをかぐり
賀八入あひのひきくまでが乃を泉ーてうれあり
市ハ家業を田くふおとろへゆくさてあもく宿よ
ある日ハ擣ぐり乃書物とりちくしぞひきうり丸竹
乃筒のひうきれぐりまてそぐちありせうる中うり伝
やう素物とりいぐしぞりの栗ぐちぐさてぞへのよ
まもきくいきぐぞうぐて我慢よあり瘍瘡やこ
乃下地ありそれぐこうぐそひぐ孤ハ情奕女色の
ちぐぐちとんぞわ方三神乃法ぬよひ答ぐかるひ伝う

うたをゞ事へぜひりの一ぎょうにハ[illegible]
くれぐ。見来れんぐ。[illegible]
まひてこそ朋友乃伝[illegible]
[illegible]ぐ。おのゞやうよをどりあひぞ[illegible]
事ハ。[illegible]いうんよ[illegible]
ひと。ゞどもんのゞてとろべきさ[illegible]
[illegible]げなりとひろひこそ[illegible]
[illegible]ぐ。[illegible]
く。へ。[illegible]乃中[illegible]
よこそいひもとり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てハ此俗耳針石砭鍼膳鼓吹ありなどいつりもてて
拡蘊とりおそのんの乃郷ひハぬ者よあらんぐ さくハ知
ことくやはらん向後とてもさやうよろこぶ
人よありせばりぐ。けるの乃法のたくさまもうふたとへ
ていそぐ。ある八坂乃塔婆を百ゆづりうこあげ
てもそれとそをぬりぐのことをおとりてぐうこせ
ばへぬそるれもぐめれはろこび。ものふむひて筆
ちろむろよハこ臺ろうふろ乃茅よハま母と
て茅よもまーめんことねぐび。茅よ侍つ城のか
まへハ清源学養の宮殿ようたー。もを乃乃術
とりあぐ代もへの言とるれて。茅句といひてぐ
くさつまーぬりくり郭云を行らびぐろ書れ句

腹箭とうげさくぐとひくくて文茅るとにいつ
乃まもれでいつよをよくぐに。紙を変ーみふれて
ぬゆくの家もちくぐもちくろせくさく紀れ神
のうへよハみの乃月の彩をとのこ。まこ乃家の
さむーろよりとりくりーー傳と見くそぬ茅れさあ
ぐりとぬりくろへ人のりくへ清四墨とりてくり
あへぐぬちくりおくーるぐさろと茅とくろていくこ
乃紙うさけをくるみなくあくれるう物くぐである。
ちろれくるーぐぬちくやふろうあるぬりけるう哥紙
茅句百韵るぐぬ彩成就乃ちろーをあくーー松え
の彩ハ茅紙のでい絵ようくやさ結縁とる絵乃
茅くよりぐへぬるいよちつ如の大海ようふぬ。和哥

とゝのをぬ。あんの板法乃めの文とゝのり。乃巻。ゆうさ時の
ゆうひとて。ぬ。卯。花の。ゆうさ。めでゝ。偖
元とちぶ。ゝんゝとたりゝれ。ゝゝ男乃彩を神ふ屋
どゝてハ。ゆ。ゆ。ゆ。苔の下にとゝゝひ。塘の茅屋よ和を
あんごみゝさふあゝけゝくゝあゝちゝひ乃ゆやのゝう志
てゝゝてとたくゝへとゝゝ。金とび堤のごゝく。根と礫
乃ごゝゝゝた。嘆。乎。一人の。悪。ゝゝ。ゆ。ほゝく乃人。ゝに
うゝごゝゝのゝ。ゝ。ゝ。

朋友とぶらいして伝あれどりと共忍せ一人くを
孤入ほどの云界者よりもっぱんで桃源乃地ちらどや。
冒戦れとこ女乃中をもやりくげあけさりよくゆ乃心
をもうぐさむりと。要くこの筆より伝だるごろうどさんが
ごとーこ。山雪の毛よ結毛ちくれど。きよ目乃二目ゐけ
くぶをまきさくれば。ちくさ人行ともいくこに吐息伊
つきえあくび。くとふちやだりゆうぐめうひ伯
らんざてく退屈ちくう事やとそこちう蓋を家ふ
つまくぢびり京へのがれくゆ毛つまぶち下向
せんと手ふ一れいひくうーひぶりこざりへうれくれ
で日絆ハ貴よくこふさぬ傳こあひ。まろ宵物あり
いぎ治へれゆひりさせんとのこまふいと時ふこそよ

くれとて。稚院よ入て休息ーー伽藍乃縁紀ちど牡
たばひ伯ち。浮ち当ハ法ちけ一よちえのふよいちん
びぶりよ執金剛神ちくよちん。荒まあーせよふ。若
ちくけ八尺。ちりあ伯ちん。傍ふ面開基ありとくふ人皇四十
五代聖武皇帝ちくぶーとはくんちくうてナ
ちぶちくう乃牡迦伝の像をはくくせ治ふこの時京名
よいまぶ黄金ちりこみど作らまくちいれ別
金黄ふ山ハそのほくふ黄金ありとこくふ所荒
ばくちよいりて金とはくく仏像と荘厳ーー治へと
ちり伯ちくよちぶひ。ーー聖ふよ入て初ふせく
まくくに荒王指沢ゆちりうふつぎそのこまく
この山乃黄金ちくふ荒るの出世を治て桃花こ

金乃あるうきを知るうゑゆつよゆてこゝろ恐よ
ちぢぶれど師の恩ことうまんぐこゝろふ江州勢田丸竜
よあるはくゆつ乃山あり。如こう福歌自在王寺竜の地
ならゆぶんぢうこふ紀ありて拾今せどゆるうん黄金
とゆんと宮ふとかんくゝ蓄さあぬとるゆちせこふお
ちむくゆはよ白髪乃光義大石乃ようあ一ぐ勢と
たゝありらうるん間ていくゝぶんぢ行んぞや答
いくゝぶ山乃あゝど吐ん神ゆりぶ西ゆんとんの
霊地ゆりとゆひ手てゆさぐさゆゝど僧ようく
あぶくてゆのゆよいゆりとむとびてゆゝいゆんの
像とあむして償復拾倶ちゆふゆくれどるく奥別
ゆりちどめて黄金とゆゝみどるゆんあさゝど

ちゆつち滴ちあゝて紙像と荘厳ちゆふとそ
ちゝゝぶれは代ちゝんとあづまちゝみちの
くゝよてどゆむちくゆ赤稲和歌とちゝんれゝもゆ
ちゝれまゝるべゝゆそゝくちみどらうるんとは
ゆとひちゝゝて歯ちゆ代はちんゝうちゝれよちの
だ蛇看とちぶゝこ拾ゆゝと紀ゆん像とちくゝふ作り
ちめゝれゝちゝりゆる紀ちゝゝさまはのちれど縁
紀ゝゆちゝく事あるべゝゆたちゝちゝんゝんゆゝさ竜
乃霊竜どゝく拾ゆるはどふ竜こ拾ひて下向めゝれ
ゝとあ主バ一礼ゝ一毒金とちぶゝりてたちゝれぬ。
すゝちゝやゝちゝを一牛乃臭ゝそふちゝるれひゝぶの
あ西ゝ乃ちゝぶゝさめゝハゆゝふぶ房とゝんぶゝこゝて

いひそくくむ。の貝ひづのあまこのちづくとた
うと方よあげく結つる。雅を吾の猶ようくれども。
よそむハまれるうんう。皆人の紛がかくくちらぬ
くふれくびこあるるるひ西とハ。慈法和尚のいくを
結ひ。もうくて伝るそとよかるがゆへよ種よいるく
一切乃法の世るるに。生あるりの八皆死よ海を彩命を
書とうへども。かるくで絶尼ほことあり。更さうんるる
りの八必れくるへありぬひあるものハるるくことあり
壮まひくくく停らぬ。さうんるる名八病よ侵られ命
を弱のるよ書ぬ法くして常るるのある事る
とぬくとるりへ法のよ海るくよさへぶれども。名や利
書とあくまで合るり。ぬくくく楽永浄の四倒よるがれて

もよあぬるるぬるべ。がるるくるや杖の面乃分の
うくてくんいるげまのひくりあるるるいのち。
死くまれぬるあるぬ乃寿くりちるるさ気ち人を
ぬくくその俗のいるうんがぬ面乃むひくくるひ伝
果のくみをむくとぬ事をる。貪欲瞋恚易癡よひくれ
て。地獄鬼畜ふいくくんまぬちるかるべくさるぬ地
ぬくびまれるくけくるぬがけぬへもるさん方とるるぬ
むふるる結よるよ。悪傷ぬれのくまぬさくもあるくと
あぬるくくあぬくりるぬ。此ち衣と美せる帥乃。
るる産くくくてぬくくちるとくる世結ふぬるくとり
結る地ぬ。ありの寿くまるもぬくくるぬ人のくぬくり
うるひいぬくありぬや雅ちまくくるぬむべくさぬるよ

ものうれいを吟じて力なく死ぬるよハ伯母うばやとぞいひあつふ
ものうていつるぞたとうるぞさ伯母ぞさ伯母ぞ
洛都の山歌あり乃吟人事をとくやうよハるるハ眠中
分のうぞいうてぞうく耳うもいうざうぞ恋の照傷と
そ祇うくれ枕もくれの面舎ふうざふこそ偽ようがさう
乃ちり合るべくとゝへハ伯母ぞ姉ぐに打笑ゆく来
を勢ひて窮防に追留せうぞこそいうて海
くれぞへあひ乃ひれ言ひるりあとやあうばさう
むともうんと吟じてこそハやうふくれとうふ延寶
四年三月日市中伯母賠窓下にて記之

洛下富尾似船

二條通武村新兵衛　開板

延寶四年ハ明治十三年ニ
当テ二百四年ニ当リ
紀元二千五百年祝賀